

ユーラシアンクラブ ニュースレター/心はいつも旅する 加藤 九祚

ユーラシアンホットライン

新年のごあいさつ

ユーラシアンクラブ 大野 遼

新年明けましておめでとうございます。皆様の前年の所感はどうなものでしたか。私は昨年秋以来、「何年もかかる“新しい形の戦争”」—というブッシュ米国大統領の言葉が気になって年頭の所感はぐらぐらと揺れています。私達はどんな世界に引きずり込まれようとしているのか？今年はこの問題意識で一年間を過ごすのではないかという気分です。私の意に反する状況が動いているという気持ちがあるためです。…従って以下は私の独り言です。

— 思い出して。少なくとも去年の今ごろ。「21世紀は多民族多文化社会。民族の共生や自然との共生が新しい価値観の基礎となる」と、文化が重視される一人一人の個人の思考が大切な時代を迎えたと誰もが思ったはず。そう去年のお正月は。昨年9月11日、全世界を驚愕させたテロで、一変した。「聖戦」。「十字軍」。「西部劇」。冷静に考えれば眉をしかめるお題目を掲げて、「テロリスト」をかばうものはテロリストの仲間—という大きな声为社会の中で勢いを得て、アメリカ議会は反対者1人という圧倒的多数で400億ドルという巨額な戦費調達が認められた。国内に民族問題を抱える大国や旧植民地宗主国の支持も取り付けて、「テロの原因」や紛争地の歴史的背景を語ろうとする者もまた「悪しき相対主義者」として語るコメンテーターがテレビマスコミ界にあふれた。新型爆弾の実験場と化したアフガニスタンでは、評判の良くなかった北部同盟が米英等の“代理戦争”の形でタリバンを追い詰め崩壊させた。これでアフガンに平和と暮らしの安定がもたらされればよし。しかし、タリバンやアルカイダが壊滅したわけでも、オサマ・ビンラディンが容疑者として逮捕された訳でもない（米国は、ラディンを殺害するか、軍事法廷で断罪すると言っている。私は、事件直前にCIAと接触もあったというラディンの考えを聞いてみたいのに）。大きく勢力地区が変わっただけである。ブッシュ大統領は、「テロの原因」や歴史的背景について考える猶予も与えず、何か次の戦場を探しているような気配さえする。これはどうしたものか。当面400億ドルの戦費を使い切るまで空爆を続けたいとも言っているかのようだ。

日本には「罪を憎んで人を憎まず」という言葉もあるし、聖書にもイエスの前に連れてこられた女性をどう罰するかという場面で「あなたの方で罪の無い者が、最初に彼女に石を投げなさい」と発言し、人々が立ち去ったという有名な言葉もある。「目には目」という言葉が一人歩きし、「正義の国アメリカ」という言葉が無反省に語られることには抵抗がある。「報復」についても、日本のあだ討ちなども江戸社会にはあったが、これも公開の果し合いであった。年末恒例の忠臣蔵も、「原因」に対する同情が、根強い人気の劇場劇の支えになってきた。犯行に至った経緯、動機、原因を見据えて再発を未然に防ぐことが社会秩序を維持する工夫だとしてこの知恵を受容してきたのが日本人の態度だった。厳罰主義や死刑制度に疑義があるのも、人間の持つ善的可能性に道を開きたい希望の現われと思う。軍事法廷で裁くなどは、西部劇の即決のつるし首のようなものでおおよそ文明的ではない。

しかし、今や日本も含めて、世界では、遠の昔から、人間関係の仁義に反する「弱者いじめ」「独り占め」「都合よく考える」ことが人間の思考を覆い始めているようで、強い者はいつまでも「正義で」「人情深く」「豊で」「自由で」「民主的」で、弱者を「教導し」「助け」場合によっては「統治」さえするもので、…と、実にワンパターンなやくざの図式を受け入れないと生きていけないような議論に満ちている。テレビでも言っていたが「正義の戦争」はヒトラーも行い、ブッシュもやっている。戦争がテロリストの行為と何ら変わらないことは明らかなのに。「正義の国アメリカ」とは「都合よく考える」最たるものではないのか。そう言えばアメリカは国際社会で唯一、国際司法裁判所から「テロリスト国家」と有罪を宣告され、「国際法遵守」という国連安全保障理事会の決議に拒否権を発動し、総会決議にもイスラエルとともに反対した国だった。

皆さん同様、私もエンドレスの、独り言を続けています。自分の頭で考える。これが最も重要な時代になりました。日本人と文化に関わり深いユーラシアの諸民族のほとんどは現在、大国の支配・統治の対象になった結果、自然資源や環境、歴史文化、将来に対する自己決定能力を喪失し、誇りや自信が揺らぎ、居場所を見出せない肩身の狭い暮らしを余儀なくされていることが多い。少数民族が誇りや自信を回復するのを妨げるものは何か。そのために役立つ人間関係の枠組みがあり得るのではないか。そのためにユーラシアンクラブを提案しました。当初は、辺地の村の産業力を向上するため、人間関係や村同士の関係作りを目指しました。余りにも日本人がユーラシアの諸民族への理解を欠いていたため、文化講座や留学生フォーラムなどを通して人材との出会いを期待しました。しかし自分がよければよいという傾向が強すぎるように思えます。「正義の国」は利己主義の上には立っています。今年は「自分も都合よく考えていないか」という自己評価も大事にしたいと思います。

国家、民族、宗教を超えて理解、親睦、協力の促進を目指す人間関係の枠組みを目指すユーラシアンクラブの活動は、無理をせずそろそろと、人間関係の仁義を守り、時間をかけて続けていきたいものだと考えています。半年がかりで準備してきた「ユーラシア紛争地特別フォーラム」（3月9日）「ウズベキスタン・ブハラ民族芸術団来日特別公演」（3月26日来日）が大詰めを迎えます。理解親睦協力促進につなげる4月以降の計画も構想中です。今年もどうぞよろしく。

＜クラブ短信＞帰国留学生からEメールでグリーティングカード

インターネット時代ですね。年末年始に下記の方々からグリーティングカードを頂きました。
トラットさん（キルギス） ジーナさん（サハ共和国） シェルゾドさん（ウズベキスタン）
イジンプさん（カナダ） チムールベクさん（キルギス、現在ハーバード大学）

＜ユーラシアンクラブ春の催し＞

- ◇～「文明の衝突」の克服と平和のあり方を探る—国家、民族、宗教を超えて—
ユーラシアの紛争地の背景—テロリズムとアフガニスタン、チェチェン—
03/09 土 ユーラシア紛争地特別フォーラム 早稲田大学・小野講堂
- ◇～国際交流基金助成事業 ウズベキスタン大使館、ユーラシアンクラブ合同事業～
シルクロード映画芸能フェスティバル—ウズベキスタン文化ウイーク日程
03/27 水 「東トルキスタンの楽典—シルクロードの競演」
出演『サシマコム』、ウメル・ママトト（ウイグルのラフツ奏者）他1名
東京オペラシテイ近江楽堂 新宿区西新宿3-20-22 TEL03-5353-6937
- 03-28 木 日本・ウズベク映画フォーラム—映画上映と映画関係者の集い
川崎市・日本映画学校(代表 今村昌平)
- 03-29 金 「シルクロード音楽の競演—『サシマコム』と琵琶・中国琴」
出演『サシマコム』 琵琶—ソヤラ 中国琴—タラ
川口リリア (川口市総合文化センター)
埼玉県川口市川口3-1-1 TEL048-258-2000
- 03/30 土～03/31 日 柏崎トルコ文化村公演 新潟県柏崎市柏崎トルコ文化村
新潟県柏崎市鯨波740 TEL0257-21-4400

【呼びかけ①】

ブハラ民族芸能団『サシマコム』の自主公演に一層の力をお貸し下さい。
—ブハラ・サシマコム来日特別公演実行委員会 幹事 高橋 一夫—

11月に自主公演へのお願いの文書を送らせていただきました。多くの方々の励ましや協賛金、チケット予約のお申し出を頂きました。厚くお礼申し上げます。

目標に対する現在の状況は、協賛金 35%、広告 0.5%、チケット予約 11%です。まだ緒についたばかりです。その後、円安が進み、ウズベクの為替交換レートが大幅に変更するなどの条件の変化を考えますと早めに目標をクリアし、超過することが求められています。みなさまに一層のお力添えをお願い申し上げます。

○公演に高まる期待

ゾロアスター教、仏教、そしてイスラム教などさまざまな文化が幾重にも重なり合うシルクロードの要衝、東西のさまざまな音楽芸能の蓄積をもつブハラ。いったいどんな音楽芸能なのか関心と期待が高まっています。今回の公演には、バイオリンの元になったといわれる『ギジャック』をはじめ現代楽器の原点になったと思われる楽器が登場します。日本音楽や楽器の源流を探る絶好の機会ともなります。

また、アメリカのテロ報復戦争の戦場・アフガン

に隣接する中央アジアは今後の平和を模索する上で重要な地理的位置にあります。この地域の人々の日常の暮らしや文化を知り、民族、宗教、国家の枠を超えて平和に共存する道を探るチャンスにもと、期待が広がっています。

○積極的な会場側の受け入れ体制

川口リリアでは1月15日にチケットを発売し、市の広報紙にも紹介し、なんとしても会場を埋め尽くす意気込みです。東京オペラシテイ近江楽堂でも紹介リーフとチケットが早く欲しいと催促されています。柏崎トルコ文化村でも受け入れ準備を前倒しして進めています。

○さまざまな取り組み

サポート会員やボランティア会員もさまざまに取り組んでいます。Tさんは友人、知人にひとりひとりお話しし協賛者を5口、チケットを5枚予約し、Iさんは広告の出稿依頼を自ら経営する業界の方々などに忘年会、新年会で訴えています。また、4月1日2日の公演営業に京都に足を運んで努力しているSさんなど取り組みが進んでいます。

メセナ事業を展開している企業にも働きかけてい

【告知】加藤 九祚さんの満80歳の誕生日祝いをテルメズで！

2002年5月18日で満80歳を迎えながら、夢とロマンと学問のためにウズベキスタンのテルメズ市で仏教遺跡の発掘調査を続ける加藤九祚先生の祝賀会をウズベキスタンの現地で行います。日程は5月18日をはさんだ一週間程度の見込みです。

ご存知のとおりテルメズは、ウズベキスタンの南部、アフガニスタンとの国境に位置し、昨年来の戦乱で5年目を迎える調査が可能かどうか危ぶまれていましたが、加藤先生は昨年11月、タシケントを訪れ、戦局を押して調査実施の段取りを合意して帰国されました。その後12月に入り、タリバン勢力が瓦解、ウズベク国境も安定化してきたため、調査支援をかねて訪問計画を作成することにしました。

若干の日程変更の可能性も有りますが、下記の予定で満80歳誕生日祝旅行を実施します。

友人、教師、日本のユーラシア、シルクロード学の先覚者加藤九祚先生の80歳の誕生日を祝うツアー

5月17日（金）昼頃、関空発タシケント行き タシケント一泊

18日（土）、タシケントーテルメズ 加藤先生誕生日祝

19日（日）、見学

20日（月）、テルメズータシケントー関空

21日（火）朝、関空着

◎ 現地では、ウズベクスタンの芸能を盛り込んだ楽しい催しを計画中です

◎ 料金は15万円ー20万円程度（先生への記念品込み）

◎ 希望者には、23日（木）帰国の計画でサマルカンド等の観光の計画も検討します。

【朗報】玉川文化財研究所が、仏教遺跡の発掘にベルトコンベア4台寄贈

アムダリヤ河沿いの仏教遺跡を発掘中の加藤九祚先生に、玉川文化財研究所の戸田哲也代表が発掘機材としてベルトコンベア4台の寄贈を約束しました。夏には50度近くなる灼熱の砂礫層で仏塔遺跡の発掘を続けていますが、現地は学生らの手彫り、バケツリレーが発掘を支えています。加藤先生は、3月から5月まで毎年発掘調査を続けていますが、短い期間を有効に使い、困難な発掘作業を少しでも和らげることが大きな課題となっていました。満80歳を迎える加藤先生の事業を促進するため、日本の考古学者の協力を依頼していましたが、ユーラシアンクラブのサポート会員でもある戸田氏が、「加藤先生のためなら」と快諾していただいたものです。搬送にも費用がかかるため今後関係機関にも協力を得るべく働きかけたいと思っています。どうもありがとうございました。

◎ ユーラシアンクラブのサポーター会員を募集しています

ユーラシアンクラブは、3月のユーラシア紛争地フォーラム、プハラ・民族アンサンブル特別公演の開催等理解促進のための事業や留学生などとの親睦、少数民族村の支援などをボランティアスタッフの無償の活動を支えに進めています。毎週のスタッフ定例ミーティング、ニュースレターの発送など、日常活動にも経費がかかります。財政的に支えていただけるサポート会員を募集しています。

年会費は1万2千円。振込み先は、「東京三菱銀行虎ノ門支店 口座1053500 ユーラシアンクラブ オオノ リョウ」となっています。ご協力をお願いします。

■ 木野、井口、大野がシカチアリャン村（アムール流域ナナイ人）を訪問、キャンプ計画で合同会議（一部再掲）

山菜加工セミナーの開催や中古ミシン、布地の提供、縫製工場の立ち上げ、文具の寄贈など、10年にわたって、自立支援の活動を進めてきたロシア共和国ハバロフスク区シカチアリャン村で、新たな自立のための活動拠点となる「コミュニティキャンプ」づくりのため住民参加の運営委員会が設置されたことを受け、将来の活用方法、維持管理の手法、サポート体制等について活動を再構築するため1月11日から14日まで村を訪問、話し合いを行うことになりました。

会報30号で既にお知らせしましたが、現地の委員会の代表は、ミシンの技術研修のため富山市のカーテン縫製工場「丸装」（東林勉氏経営）に滞在したこともあるニーナさん。ニーナさんは昨年12月の選挙で再選されました。委員には、訪問のたびに暖かいもてなしをしていただいた村の住民、ペーチャ（漁師）、前村長のアクタンコ、等、12人の住民が委員に名前を連ねています。全員よく知っている人です。

「シカチアリャンコミュニティキャンプ管理運営委員会」メンバーリスト

- 1 ニーナ ドゥルジニーナ : 支配人 / 村長
- 2 ピョートル ドンカン : 漁民
- 3 ミハイル オネンコ : 漁民、運営ボランティア
- 4 オレグ スースロフ : 猟師
- 5 ビクトリア ドンカン : 教師
- 6 ジャンナ アクタンコ : 教師
- 7 スタニスラフ アクタンコ : 工芸職人
- 8 リーマ オジャール : 魚皮活用技術者
- 9 イリーナ ビリュリョーバ : ナナイ文化伝承者
- 10 エンマ サマール : ナナイ文化伝承者
- 11 エカテリナ ムルジナ : 高齢者
- 12 ニューラ アクタンコ : 高齢者

「（委員会メンバーだけでなく）全ての住民がこうした活動に参加し、村の児童や人々の教育訓練プログラムやカリキュラムづくりを行うと考えている」とニーナ村長は話しています。またキャンプの修理についても「村役場は無職住民やボランティアによる修理作業を組織する」と書いています。今回の話し合いでは、こうした点についても再度確認します。

今回の「委員会」は、今年3月、10年来係争中だったクラブキャンプの管理運営の法的問題が最終的に解決したのを受け、このキャンプを民芸工房や子どもたちのキャンプ、養殖などアムール漁業の向上、ナナイ語や文化を老人たちから学ぶ教育センターとして利用し、村民の自立の活動拠点となる「シカチアリャンコミュニティキャンプ」とすることやユーラシアンクラブの交流拠点としての宿泊施設として整備することになったもので、現地の「委員会」の話し合いの結果として；

「（キャンプ地を）①毎週、手工芸センターとして②夏季休暇中は児童センターとして③フィッシュファーマーミングの可能性を開発する調査訓練センターとして④毎月、ナナイ語と文化を学習し、継承する教育センターとして使用したい。」

と回答しています。

キャンプは広さ2ヘクタール。アムール川の岸辺に6つの建物があり、数年にわたって、富山県の東林勉さんらの協力で縫製工場が置かれていたこともあります。秋になれば鮭漁のために村上げて、朝となく深夜となく、一時間おきに舟が川面に繰り出し網を張るナナイ民族の暮らしのフロントのキャンプです。私はかねてここを村人が自助努力の拠点として使用し、私たちとの交流拠点になってほしいと思っていました。しかしロシア人、ユダヤ人、少数民族という民族を超えた人々の一部が都合よくここを利己的に活用しようとしてきました。ロシアの荒廃した社会は夢を壊し、今日まで夢に向かった最初の一歩さえ記すことをさえぎってきました。今回の「委員会」発足は、何とかして民族共生の道のあることを示すための、失われた10年前の夢の実現です。人間関係に意味と可能性のあるところをこの村で見たいと希望しています。

今回の話し合いが首尾よく行われれば、ユーラシアンクラブ内に設置した「シカチアリャンコミュニティキャンプサポート委員会」のサポーター募集を始めます。委員長には、クラブ監事木野 保幸氏にお願いしています。「サポート委員会」は今後、現地との連絡協議を積み重ねて、実現可能な活動を積み重ねていく予定です。皆様のご理解ご協力をお願いします。

ます。

○交流懇談会を開催

遙かシルクロードからの音楽芸能使節『サシマコム』との交流懇談会をご協賛戴いた方々に御参加頂き、4月の帰国前に実施し、新たな出遭いが生まれ、お互いが理解し合える機会にしたいと考えています。日程が決まり次第御連絡申し上げます。

○ご送金は同封の郵便振替で

経済情勢が一段と厳しい折ですが、事情を御理解頂き、みなさまに協賛金の拠出、広告のご出稿を改めてお願い申し上げます。今回は郵便振替用紙を同封させていただきますのでよろしくご依頼申し上げます。あわせて友人、知人に声をかけていただきチケットの予約もお願い申し上げます。

- ・具体的なお願いは以下の通りです。①1口10,000円以上の協賛金のお願い。②製作予定の『サシマコム紹介リーフ』への広告出稿1口5,000円のお願い。③川口リリア、近江楽堂のチケットを1枚3,000円(前売券・全席自由)でお求め頂き、知友人への御紹介のお願い。
- ・リーフ広告:A5サイズ、裏表印刷、モノクロ部数2,000枚 広告サイズ W64*H18 キャッチコピー 社名住所、電話番号など4行以内社ロゴには対応できかねますので御了承下さい。
- ・ご送金方法:便振替 00190-7-87777 ユーラシアンクラブ宛 通信欄に ①サシマコム協賛金〇口として ②サシマコム広告掲載料として ③サシマコムチケット川口又は近江と記入し御送金下さい。

・お問合せ:ユーラシアンクラブ〒151-0053 渋谷区代々木2-13-2 第一広田ビル TEL/FAX03-5371-5548 E-MAIL:PAF02266@nifty.ne.jp

【呼びかけ②超えて民族共生】

国家、民族、宗教の新しい価値観を模索する一日がかりのフォーラムにご参加ください

「ユーラシア紛争地特別フォーラム」実行委員会 幹事 福井 伸彦

当クラブでは、昨年9月11日、アメリカニューヨークの世界貿易センターなどに対するいわゆるロシア「同時多発テロ」の発生を契機に始まったアメリカの「アフガン戦争」、さらにアメリカの主導による「対テロ戦争」を名目とする悲惨な戦火拡大の可能性の広がりという深刻な事態に直面して、「この21世紀初頭の危機的な状況をどのように捉えるべきか」、そして、「こうした事態に対して我々がなにができるのか」などについて、アフガンやチェチェンをはじめとする紛争地の動向を俯瞰しつつ、広い視野と長期的な視点で考え、話合うことを目的として「ユーラシア奮闘しフォーラム実行委員会」を設置、下記の要領で「第1回<ユーラシア紛争地特別フォーラム>」を開催することになりました。このフォーラムは各界の有志の方たちの積極的な参加をいただき、実行委員会形式で運営するもので、当クラブの会員の皆様をはじめ、多くの心ある方たちの参加を呼びかけます。

「対テロ戦争」を名目とした戦火の拡大に歯止めを!

第1回<ユーラシア紛争地特別フォーラム>を開催

(1) フォーラムの名称

「文明の衝突」の克服と平和のあり方を探る——国家、民族、宗教を超えて——
ユーラシアの紛争地の拝見——テロリズムとアフガニスタン、チェチェン——

(2) 開催要領

- ◎日時 : 2002年3月9日(土) 10:00~17:00
- ◎会場 : 早稲田大学小野講堂(本部キャンパス内7号館) / (新宿区西早稲田1-6-1)
- ◎参加費 : 当日1,200円(前売り1,000円) = 資料費込み =
- ◎参加定員 : 座席数182席
- ◎趣旨 :

ニューヨークの世界貿易センターへのハイジャックされた旅客機による自爆テロ、「テロへの報復」や大国が介入した戦乱ですでに100万人もの難民が死亡しているアフガニスタン。そして、テロを口実とした第一次、第二次戦争を含め戦乱の絶えないチェチェンをはじめとする紛争地。さらにパレスチナをはじめ「対テロ戦争」の名目で対立が先鋭化し、戦火の拡大が

懸念される世界中の諸地域における事態の深刻化。このような人類の将来に大きな不安をもたらしている21世紀初頭の重大事件をどのように考えたらいいのか。国家、民族、宗教を超えた平和の秩序構築には、どんな考え方や方法があるのか。テロという犯罪の原因、報復の悪循環、これらの問題を克服して平和と生活安定へのプログラムを形成するためのアプローチなどについて、紛争地で難民の支援に取り組む方たち、歴史家、国際政治の専門家、市民、学生、留学生など多方面の方たちから考えを聞いて、「国家、民族、宗教」を超えた理解、親睦、協力のための枠組みを探る。

◎目的 :

- ・一つの結論を求めるのではなく、現在進行中の事態に対してさまざまな理解やアプローチのあり方を考える。
- ・会場では、実際に難民支援に取り組む個人や機関、団体などから多角的な考え方を出していただき、各個人の可能な活動について考える。

(3) プログラム

◎第1部 現地レポート(司会:林克明氏<フリージャーナリスト>)

- ・難民支援、医療活動、芸術活動などのフィールド活動家からの報告
- ・難民支援活動団体(NGOなど)のアンケート結果発表

◎第2部 紛争地の歴史的背景(司会:田中哲二氏<当クラブ顧問>)

- ・「ユーラシア史の立場から」(仮題) 加藤九祚氏(当クラブ名誉会長)
- ・その他、国際政治や地域研究の専門家の方たちに、「アフガニスタンの成立と国際政治」、「イスラエル建国の背景」などの論点でお話しいただく(パネラー現在調整中)。

◎第3部 欧米先進国と紛争地(司会:若林一平氏<文教大学教授、当クラブ会員>)

- ・寺沢潤世氏(日本山妙法寺僧侶)
- ・デビッド・ロイ氏(文教大学教授) =同時通訳、井手マヤ氏=

●シルクロード音楽演奏(ウイグルラップ、タンブル、琵琶など)

◎第4部 「私も言いたい!」(司会:伊藤憲一氏<(財)日本国際フォーラム理事長、青山学院大学教授>)

- ・スピーカー公募(日本人、イスラム教徒、難民、留学生等10~15名)

◎第5部 紛争地の平和と現地の人たちの生活安定のための後方支援は? 私の役割

- <主催者提案>
- ・紛争地へ代表団を派遣し、報告会を開催する。
 - ・現地NGOなどと協力し、女性や子どもたちへの適切な後方支援を行う。
 - ・「実行委員会」は「紛争地地域フォーラム」を継続する。

(4) 主な司会者・パネラーのプロフィール

- ◎林克明氏 チェチェン紛争、環境問題などをテーマとするフリージャーナリスト。著書に「カフカスの小さな国」(第3回21世紀国際ノンフィクション大賞受賞) などがある。
- ◎アキール シディキ(ジャパン イスラミック トラスト事務局長) アフガン現地で難民支援に取り組むパキスタン人の援助グループ事務局長。
- ◎田中哲二氏 当クラブ顧問。日本銀行を経てキルギス共和国大統領顧問を務める。著書に「キルギス大統領顧問日記」(中公新書) などがある。
- ◎加藤九祚氏 当クラブ名誉会長。国立民族学博物館名誉教授、ユーラシア史専攻、現在ウズベキスタン・テルメズで仏教遺跡発掘調査に従事。
- ◎寺沢潤世氏 日本山妙法寺僧侶。チェチェン紛争に対して現地における抗議行動を実践している。
- ◎デビッド・ロイ氏 文教大学教授。仏教徒の立場から鋭いアメリカ批判を続けている。
- ◎伊藤憲一氏 外務省を経て青山学院大学政治経済学部教授、外交評論家。著書に「現代アメリカ政治外交論」、「日本の大戦略」 などがある。

(編集後記)暮れにサハ共和国のバラムイギンさんからメールがありました。一昨年手術した娘さんの再検査。1月中旬まで来日の予定です。私はアムール川のシカチアリャン村にいますが、帰国後懇談できるかな。消息を知らせてくれるとうれしくなるものですね。今年もよろしく。

(発行) NPO 法人ユーラシアンクラブ (発行人) 大野遼 (編集人) 井出晃憲

住所: 〒151-0053 東京都渋谷区代々木 2-13-2 第一広田ビル

電話/ファックス 03-5371-5548 E-mail: PAF02266@nifty.ne.jp

homepage: <http://homepage1.nifty.com/EURASIANCLUB/>